

かけはし

発行日：令和2年10月9日

発行者：
学校運営協議会
会長 但田 勝義
紙面編集
学校運営協議会事務局
担当：平川 亮一

R2学校運営協議会がようやくスタート！

9月29日（火）令和2年度第1回学校運営協議会が開催されました。

但田勝義会長から挨拶を頂戴し、本校校長より声問小学校長野口修一氏が新委員として紹介されました。

議題は、コロナ禍で遅れていた令和元年度学校評価の集計結果、今年度の経営方針について、説明・質疑が行われました。その後、各部会に分かれて授業見学を行い、感想・意見交流をしました。話し合われた内容は下記の通りです。



○令和元年度学校評価報告

- ・教職員評価の中で、「関わりが無い」「担当ではない」等の記述については残念に思う。職員が一同に力を合わせて進んでいけると良い。
- ・昨年度の反省を受けての改善は。（反省で終わってしまっは意味がない。）
⇒新学習指導要領の内容理解については、研修部が中心となって授業改善に取り組んでいる。既に成果が見られ、改善に向かっていると認識している。



○学校経営方針

- ・「めざす職員像」という項目を新たに追加し、職員に各々が目指したい教師像について聞いた。4つのうち上記3つは、その結果をまとめたもので、最後の1つは校長の思いである。
- ・学校経営方針は、3・4・7月に職員に話をしている。7月は年度途中ではあるが、新型コロナウイルス感染症対策に関わって文章を追加した。
- ・今年度の重点キーワードは「学び」「地域」「対話」そして「Re Creation（再創造）」である。「楽しむ」という意味もあるが、「やっていることをもう一度見直そう」という意味も込めている。職員に各々の「Re」を探してほしいと伝えたところ、44個の「Re」が挙がった。これらについては、年度末に1年どうだったか話をしていく。



学校評価部会

学校評価部会では次の2つの観点を中心に感想や意見の交流をしました。主な内容は次のとおりです。

①指導の工夫や配慮が見られた点

- PCやTVを用いてキャラクターを表示するなど、児童にとってわかりやすい授業がされていた。
- 地域の企業から委託された作業を行ったり、中学部で収穫したラベンダーを高等部で製品化したりするなど、地域や学部間の連携がなされているところが良いと感じた。
- 生徒の実態に合わせて、作業の工程を細分化するなど、指導や教材の工夫が行われていた。
- 子ども達の頑張っている様子が伝わってきた。想像していたよりも一生懸命で器用に作業をしていると感じた。子ども達も作業を通して達成感や喜びを感じているようだった。

②新型コロナウイルス感染拡大防止について

- 高等部は生徒数が多く、授業によっては教室が過密である。予算など課題も多いが不要な備品を整備しスペースを広げるなど、対策が必要ではないか。
- 教師の数を減らし、質問があるときには、生徒自らが教師へ相談や報告できるような環境を設定することも指導方法の一つではないか。



地域連携推進部会

地域連携推進部会では、学部間のつながり、教員同士の連携の在り方、学校と地域との連携について、感想や意見の交流を行いました。

①学部間のつながりについて

- 中学部が育てたラベンダーを使って、高等部が作業学習で製品を作っているのはよい取組だと思う。

②教員同士の連携の在り方について

- 連携に必要な会議を行う際に、1対1ではなく、複数で集まるとよい。複数の方が、言葉がやわらかくなり、いろいろな意見も出てくる。
- 企業でも、経営方針を全ての従業員に伝えていくことは難しい。学校では、校長との間に教頭や学部主事などが入ることで、周知しやすくなるのではないかと思う。

③学校と地域との連携について

- 地域と連携して行う授業は可能か。稚内大谷高等学校と連携して行ってみてはどうか。
- 声問小学校に、作業学習で作った製品を販売しに来てはどうか。
- 密にならないようにするなど、感染症対策は必要である。



次回の学校運営協議会は2月に予定しています。